

地域スポーツ少年団における指導者ボランティアの活動動機と運営上の問題点

A study of motivation of coaching volunteerism in youth sports team and administrative problems

1K04B199-1

船石 淳一

指導教員

主査 中村好男先生

副査 吉永武史先生

緒言

私はスポーツ少年団を卒団して、現在は少年団へ指導者として戻ってスポーツ・ボランティアとして微力ながら活動している。

スポーツ少年団での活動は、子どもが初めて主体的に種目を選んで入団して取り組むスポーツである。少年期初期のスポーツ経験は、生涯スポーツに対する主観的印象を形成する大きな役割を果たすものと考えられる。

その重要な時期のなかで、子ども達の指導を行っているのは、ボランティアが中心である。無償奉仕の活動であるので、金銭的な見返りを期待して、活動の動機を求めることはできない。ボランティアを中心とする活動・組織は、継続的な活動を展開するために多くの労力・時間と求心力を必要とする。また、継続的なサービス供給に関しては、いささか不安定な要素も残るとされている。では、実際に現場で指導を担当しているスタッフは、どのような想いを活動の動機として抱いているのだろうか。

「スポーツ環境を整える上で大きな役割を担うボランティアが、どのような動機で活動に参加しているのか。また、現場で感じる問題点とは何か。」この2つの問いに対して焦点を当てて考察し、今後の永続的な活動推進に必要となるものは何なのか追求していく。

研究方法

研究対象として、私の所属する埼玉県所沢市少年野球連盟所属の「北秋津ビクトリーズ」を設定する。チーム代表へのインタビュー調査・指導者に対するアンケート調査を行って、質的調査を実施した。

結果

インタビュー調査の結果、前団体の小鹿クラブから運営母体を引き継ぎ、31年前の北秋津小学校開校と同時に「北秋津ビクトリーズ」として誕生したことが明らかになった。その後チームは紆余曲折を経ながらも、現代表を中心に歴代の指導者達が、子ども達への献身的な指導を継続的に行なってきた苦労が窺えた。また、ボランティアの組織編成を工夫して、選手たちの保護者を中心に大勢の理解者の協力で分担して、チームの活動を支えている状況を把握した。また、チームを取り巻く社会的な問題は深刻で、チーム代表

も将来的な問題を憂慮していた。

その理解の上で、ボランティア指導者に対してアンケート調査を行なった結果、以下のような結果が得られた。

- ・「スポーツが好き」という気持ちが、活動の動機として最も大きな前提となっている。また多くの場合、スポーツ少年団の指導者ボランティアは保護者を中心に組織されているので、「自分の子どものチームを指導したい」という想いが強い。そして、新しいことに対する好奇心や社会参加への強い欲求を抱いている。
- ・「スポーツを楽しみたい」という好奇心や「選手の活躍・成長を感じる」という達成動機が、活動継続においては大きな要素となっている。
- ・活動場所の不足や少子化などの社会的な問題が、永続的なチーム活動継続に対する懸念材料である。
- ・子どもたちへ愛情を持って接することのできる指導者の充実が最も望まれる。また、コーチ間・保護者間で十分なコミュニケーションをとって信頼関係を築くことも重要である。

考察

現在の指導者スタッフの構成は、野球経験の少ない人も多く創立者が徐々に活動を退いていくなど指導者層の世代交代が進み、過渡期を迎えている。

また、ボランティア指導者の抱く活動動機や想いは多岐にわたる。指導者間の信頼関係の構築・永続的な組織運営の為の後継者育成・指導方法に関する共通認識の獲得・不安解消などを目的として、定期的なナレッジ・シェアリングの機会を持つべきだと考える。相互の経験や知識を組織内で蓄積することによって、指導活動の更なる充実が望まれるであろう。

まとめ

地域の子どものスポーツ文化の基礎である。そして、子ども達へスポーツを伝えていけるのは、スポーツを知る者だけである。スポーツは経験の蓄積が伝承されてこそ伝わっていく。スポーツを次の世代に繋いでいくためには、一人でも多くのスポーツマンの理解と協力が必要なのである。